

令和2年度 ICT を活用した集落ぐるみの有害鳥獣捕獲モデル事業 取組地区からの成果報告

<報告者（敬称略）>

糸井乙地区：小平 慎吾 千崎 一郎

青河下地区：佐々木 勝章 廣瀬 勝秀 佐藤 巧

君田町石原地区：曾根 保 島津 和志 古川 充

1 今回の取組に至った経緯（集落内での意見等）

【糸井乙地区】

- ・集落を囲う大規模柵の設置や県の獣害対策モデル事業への取組、中山間地域等直接支払制度を活用して電気柵セットを各戸に配付するなど、従前から獣害対策に関心の高い集落であった。近年はシカ・イノシシが昼夜を問わず人前で目撃され、追払いにも動じず、水稻、野菜を始めとする農作物や農業施設に多大な被害を及ぼすようになったことで、農家の生産意欲が減退するとともに、「守る農業」の限界を感じはじめた。そういうことから、捕獲による害獣絶対数の削減を求める機運が高まっていたので、当該事業への参加に対して全体的に賛同をいただいた。また、わなを設置する敷地の提供等にも積極的な協力が得られた。この事業に取り組むことに対し、地域内の農家は大変喜んでおられた。

【青河下地区】

- ・シカ・イノシシによる農作物被害が増加してきたことに伴い、3年前から地元の猟師と連携して地域で箱わなの管理を行う捕獲補助活動に取り組んでいた。今回、市から話をいただいた、ICTによる新たな技術や仕組みを活用した捕獲活動に取り組むことに対して、地域全体からの賛同が得られた。

【君田町石原地区】

- ・イノシシによる農作物被害の増加に伴い、中山間地域等直接支払制度を活用して箱わな 10 基を購入し、地域の猟師の方と連携して 10 年程前から地域での捕獲補助活用を行っていた。わなの管理は、複数の者がそれぞれ受け持ちの箱わなについて活動内容を記録しながら管理し、その活動に対し

ては報酬も支払っている。このような地域住民による捕獲活動の経験と実績がある中で、市から今回のモデル事業の話をいただき、専門家の意見も聞きながら、より効率的な捕獲活動に繋がられるのではないかとということで取り組むこととした。

2 取り組んでみての気付き（工夫した点、苦勞したことなど）

【糸井乙地区】

- ・箱わな設置候補地は獣道等を参考に地域住民（専門知識のない素人感覚）で選定したが、事前に地元の猟友会員と調整したり、指導を受けたりしておく必要性を感じた。
- ・餌付けは、捕獲期間内を通じて毎日少量の米ぬかで対応した。（一時期少量の食塩を配置した。）
- ・餌付けによりわな周辺まで誘引したシカ・イノシシをわなの中へ誘導することが難しかった。今後に向けて、エサの種類や適切な米ぬかの量など餌付けについて研究していきたい。
- ・わな周辺に誘引できているにもかかわらず、わなの中にはいってくれない場合の対策やわなの移転時期について学びたい。

【青河下地区】

- ・餌付け用の米ぬかの確保に苦勞したので、今後は安定して提供を受けられるルートを確保する。
- ・箱わなの設置場所は、毎日 1 回は餌付けのために現地に行く必要があること、捕獲個体の運搬やわな移設時の作業性等も考慮し、できるだけ近くまで車両が入られる場所を選定している。

【君田町石原地区】

- ・学習会で阿部先生に教えていただいた蹴り糸の高さや餌付け方法に関する留意点を参考にし、従前までの手法を見直した。
- ・扉の誤作動等により捕獲に失敗した個体は二度と箱わなの中に入らなくなる。そのような個体を捕獲するためには、どのように対処すればよいのか。
- ・捕獲後の汚れた箱わなの中を掃除する作業は大変である。

3 取組の成果（取り組んで良かったと感じたこと）

【糸井乙地区】

- ・身近に地域で管理するわなが設置され，通信機能付き自動撮影カメラによる画像で情報が共有でき，さらに具体的な捕獲の報告を聞くことで，集落内の捕獲（獣害対策）への関心が一段と高まった。あわせて，捕獲の難しさも理解できた。
- ・捕獲研修，現地での実技研修は大変参考になった。
- ・毎日行う餌付けの大変さが理解できた。

【青河下地区】

- ・柵による侵入防止対策とあわせて捕獲活動を行うことで，田の被害（特にイノシシによる被害）が減少している。
- ・今回の取組で，地域と解体処理施設の「みわ 375」との関係が築けたので，事業終了後も捕獲個体の引取り等において協力体制を構築することができしており，捕獲した獣肉の有効活用につながっている。
- ・従前は，わなの確認と餌付けのために 1 日 2 回現地に行っていたが，自動撮影カメラのお陰で現地に行くのは餌付けの 1 回だけで済むようになった。
- ・自動撮影カメラによる画像で取組の様子が共有できたことで，これまで捕獲活動にかかわったことのない人にも興味を持ってもらえた。

【君田町石原地区】

- ・学習会で学んだこと（蹴り糸の高さや餌付けの手法など）を地域で管理しているそれぞれの箱わなで実践したことにより，地域全体での捕獲頭数が増えた。
- ・自動撮影カメラにより，対象鳥獣の情報（出没時間，種類，頭数，大きさ，誘因状況など）が一目で分かるため，画像の状況に応じて餌付けの方法を工夫するなど，効率的・効果的な捕獲活動を行うことができる。

4 今回の取組を今後どう活かしていくか

【糸井乙地区】

- ・ 地元猟師さんと連携して、ICT活用による駆除対策を継続して取り組む。
- ・ 今回の事業で導入した機材を有効に活用するため、中山間協定組合を中心とした地域体制を確立して、捕獲技術の習得に努め、捕獲実績の向上を図りたい。今回の経験が少しでも役立てばと思う。
- ・ 地元猟師、中山間協定組合、農事組合法人糸井、農地水環境保全組織との連携を図り、有害鳥獣の駆除推進を図りたい。
- ・ 自動撮影カメラによる画像を集落全員がスマートフォン等で閲覧できるようにして、捕獲（ジビエ処理）への関心を高め、獣害対策諸活動への参画を推進するとともに、駆除率の向上に向けて取り組みたい。
- ・ 狩猟免許等の有資格者養成（助成制度）も含め、地域リーダー育成の必要性を感じる。

【青河下地区】

- ・ 自動撮影カメラを有効活用しながら、地域での捕獲活動を継続していく。

【君田町石原地区】

- ・ 地域内で箱わなを管理できる者の人数を増やしていきたい。
- ・ 鳥獣の出没情報やわな設置場所の提供など、地域住民と連携・協力した捕獲活動を継続していく。

5 その他（自由意見）

【糸井乙地区】

- ・ 当地域では、捕獲成果がなかなか思うようにならない中、阿部先生をはじめ、株式会社エネコム様、市農政課、駆除班、ジビエのみわ 375 様、地元猟友会の出口様など関係の方々には、適時的確なご指導ご対応をいただきありがとうございました。

【青河下地区】

（今後取り組まれる他地域の皆様へのアドバイスとして）

- ・わなの設置場所は、できるだけ近くまで車両で入れるところにした方がよい。
- ・活動を継続させるためには、特定の人だけでなく、地域の皆がかかわるような取組にした方がよい。

【君田町石原地区】

(今後取り組まれる他地域の皆様へのアドバイスとして)

- ・わなの設置場所や餌付けの方法、蹴り糸の位置など自分勝手に考えてやってもうまくいかないのので、研修会等で学んだことを参考にして取り組んでほしい。
- ・地域内で複数のわな管理者を確保するとともに、止め刺しを行ってもらう方との協力関係を築いておくこと。

(市への提案として)

- ・「箱わな管理コーディネーター」を設置し、地域における箱わなの管理等について指導してもらえるような制度を導入してみてもどうか。